



TITLE:

# 社會問題評論

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 社會問題評論. 經濟論叢 1919, 9(2): 337-342

ISSUE DATE:

1919-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127552>

RIGHT:

# 會學濟經學大國帝都京 叢論濟經

號二第 卷九第

行發日一月八年八正大

## 論說

住居税の本質及其構造……………

法學博士

神戸 正雄

カーヘンターの社會改革意見……………

法學博士

河田 嗣郎

社會政策より觀たる吾國の財政(二)……………

法學博士

小川 郷太郎

人糞尿の國益(二)……………

法學博士

財部 靜治

植民地の勞働政策(二、完)……………

法學博士

山本 美越乃

## 時事問題

支那の富源開放と其社會問題……………

法學博士

戸田 海市

銀行の手形引受制度……………

法學士

大森 研造

## 雜錄

航空運送……………

法學士

小島 昌太郎

今年度下半年期に於ける内地產米の

量、價に就いて……………

法學士

伊丹 萬里

社會問題評論……………

法學博士

神戸 正雄

## 社會問題評論

(一)日本の社會思潮(二)我邦婦人の智的  
向上の努力(三)社會運動に於る統一と  
分裂)

神戸 正雄

小引

私は性來、社會問題に大きな興味を持つて居る。併し其事

間研究者ではない。我同僚の中には其専問家として自らも許され人も認むる方が多い。私が敢て其間に立つて之が専問家としての地位を要求することは出来ない。たゞ性來此種の問題には興味を持ち、常に之に注意を拂ひつゝあるのゆへに、其氣附いたことを世間に訴えて大方の考慮を煩はすは、必ずしも無益の事でないと思ふ。敢て向後、此紙面の餘白を借つて、時々起り來る所の斯問題につき昇見を述べんとする所以である。實は私は嘗て其の爲めに自ら獨立の一雜誌を出さんかと考へたこともあるが、其成否が覺えないので躊躇し居る間に、最早時機を逸し去つたやうに感ずるから、むしろ此小天地に甘んじて分相應の貢獻を爲すに止めやうと思ふ。たゞ私の社會問題に關する立場が、同僚の方々ほどに徹底したものでなく、隨ふて強き反對を買ふことの少き代りに、熱烈なる信徒を集むることの出来ない不利を有つて居る。是れ恰かも私の性格の反影であつて、強めて之を變えることは難く、又自らは之を變えるにも及ばぬと思つて居る。私は矢張り唯だ私自らが正當と信ずる所を述べて、敢て世の人氣に迎合することは爲さぬであらう。恐らくは其處に私の存在の意義があり、茲に私の特徴を發揮することが出来ると思ふ。

# (一) 日本の社會思潮

今日我邦の社會思潮の指導者の數多き中に、吉野、河上、福田の三君が最大の人氣者といふこ

とである。吉野博士はデモクラシーにて、河上博士は社會主義にて、福田博士は解放論にて然りとこの事である。勿論右諸君は今日我邦の青年の崇敬を集められて居らるゝ。單に青年智識階級の思想を支配して居らるゝが、纏がて此青年が老人にもなるから、結局は我邦の全社會を支配せらるゝことになる。處が右諸君の人氣にも消長があつて、今日はデモクラシーが餘程下火になり、社會主義全盛であるとの事である。其から推して社會主義も直きに厭かれ出し、鼻に附くやうになるであらう、其處で今ぼつ／＼解放論が頭を持揚げ出したが、其れも亦一時で、更らに復古的のものが勢力を占めることゝなるであらうなどゝ今から取越苦勞をする人がある。成程此觀測に一面の眞理はある。日本の人氣が變り易く、厭き易く、人氣の當てにならぬ傾あることは認めなければならぬ。隨ふてデモクラシー衰え、社會主義隱れることのあり得る所ではある。併し、又更らに考ふると此等の思想又は主義がさう造作もなく片付けられ得るも

のなるかゞ疑問である。勿論其が人氣の燒點から離れることはならうが、併し尙永く相當に人心に深く喰入つて往くであらう。恰かも其が人氣問題でなくなるのは、人心から去つたのではなくて、却て人心に相當に同化したから問題とせらるゝ必要のなくなつたに過ぎない。其れ其れの主義が人氣を失ふの時は、其れ——の主義者が相當に其目的を達せられたことを意味する。例之デモクラシーが今日人氣を失ひつゝあるのは、之が既に相當に我邦人の間に理解せられて、其がむしろ當り前とせられるに到つたからである。デモクラシーを惡解すれば、社會の秩序を紊すことになり、國家の基礎を危うすることにもなるが、之を善解すれば益々各員の社會共同心を固くして、社會國家の基礎を堅くすることになる。決して我國體にも背反せず。我民情に十分に同化し得る。社會主義亦た然りで、此を全然排斥しては近代の國家生活が出来るものでない。少くとも其精神を相當に了解して適當に取入るゝでなければ、人心の安定は得られ

ぬ。日本でも多分もつと其を行はなくてはならぬであらう。私の見る所では兎角日本の政治が之を取入るゝ度合が少過ると思ふ。で社會主義者諸君の活動さるゝ餘地はまだ甚だ多い。尙長い間其の盡力を乞はなければならぬと思ふ。私は社會主義者の説の全部には賛成するを得ぬ。其主義者中の或ものゝ如く過激なる手段に訴へて其主義を實現せんとせらるゝのには反對である。併し彼等が現代の經濟組織の缺陷を指摘して其改善を促されつゝある其努力に對しては滿腔の敬意を表しなければならぬ。彼等の主張は必ずしも簡單な輕率なる議論ではない。深く強き信念の上に立つて居る。之を單純に危險思想として壓迫せんとするのは、甚だしく危險である。現代の社會には常に適當に彼等の持つ主張の一部を取入れることを怠つてはならぬ。若夫れ解放論に至ては、我邦の舊慣にして時勢の進運に伴れ解放を要するものゝ多々あるを認むるが、單に解放のみに馳せて、建設を忽にしては社會は混沌たるものとなつて終う。此點の努力

を併せ行ひつゝ、適當に解放を行ふこと勿論可也である。要するに社會は此等の新しい思想に對し、其が單純に流行を追ふものとして之を輕視し、其に含まるゝ所の重要又は有益なる分子を採用することを忘却してはならぬ。勿論之を抑壓してはならぬ。其をして益々穩健なる發達を遂げしめ、我社會に同化するを得せしめなければならぬ。

## (二) 我邦婦人の智的向上の努力

近時我邦の婦人にも自己の智識の不足を感じて、其修養を計らうといふ傾向があり、其の爲め會合を爲して諸家の講演を聽かうといふことの計畫が起り、又其實行せられたものもある。此は時勢の必要に適したことで、少しも之を抑制すべきものではなく、むしろ助成すべきものである。國民の半分を占むる婦女子の頭の向上しない以上は、到底社會の眞の進歩は遂げられない。今日我邦にては生活方法の改良を要するものが切であるが、此は到底男子のみの盡力にて出来るものでない。是非とも女子の頭の改良を

必要とする。又我社會に於ける諸事業にして今は男子の手により行はるゝけれども、女子によつて一層良く行はるゝと認むべきものも少くない。而かも女子が此等に當るにつぎても先づ女子の頭の改良が必要である。其の爲め女子が益々其智識を進めんとするのは適當なる事である。然るに我邦では舊慣に捉はれて、女子の中にも之を以て女子の本分に戻ると考へたり、男子の中にも生意氣な事をするといふ風に批評する者がある。特に新時代の思想を最良く理解して居るべき筈の人が却つて之を冷笑し去らんとして居らるゝのを見て私の如き元來單に不徹底なる新思想同情者たるものゝ意外に感じて居る所である。私は婦女子が家庭を餘所にして、智的運動にのみ盡力するのには賛成せぬが、併し彼等が其餘力を以て之に従事するのは大に賛成する所である。又家庭を作り得ざる境遇に在る婦人が、犠牲となつて之に盡力するに至つてはむしろ大に尊敬する所である。女子の社會上の地位は到底今日の儘では止まるべきでない。歐米

にては其が益々高くなつて居る。日本獨り國體が何うの、國情が違ふのといふて婦女子を壓迫し終へることの出来るものでない。女子の地位の向上は大勢である。のみならず道理上からも然かあるべきである。女子の従事するに適當なる方面もあらうが、男女ともに従事し得べき方面もあらうし、其適當なるだけにては女子の相當に之に従事し得られるやうにしなければならぬ。此につき單に舊慣にのみ捉はれてはならない。冷靜に考え公平に見なければならぬ。男子は從來の如く自分達の勝手のみはせずして、女子の人格を尊重しなければならぬ。勿論女子も男子の人格を無視したり又急激に過大な要求をしたりしてはならぬ。双方とも互譲協和すべきものであり、たと今日の處にては女子の智識程度が概して低いから、今の儘で女子に於て餘り大きな要求の出来ない關係があらうと思ふ。で今日女子に於て努むべきことは、男子に對する地位の解放の要求ではなくて、むしろ先づ其智識を修養する機會の供與の要求であらうと思ふ。此につきては男子も快く之に應じなければ

ならぬ。女子に對する高等教育機關の發達、此が即ち婦人問題の最當面の問題で、其他のものは恐らく段々と要求せられ、次第に實行に着くべきものであると私は考える。

### (三) 社會運動に於ける統一と分裂

私は現代の社會に於て經濟生活上苦しみつゝある所の人々に大に同情するものである。そして其社會運動に向つて深厚の同情を寄する。此處で斷つて置くが、私其運動に参加するのは其任でない。全く局外に立つて同情を持つて居るだけである。併し日本に於ける社會運動には前途幾多の難關があつて、其成功の決して容易ならざることを警告するものである。其には現代社會の中心たる資産者階級、其を庇護する政府官權の壓迫もあるが、此方は日本の國情では然う恐ろしくないと思ふ。所謂官權といひ、官吏といふた處で、此等のものが自覺して來れば、何時までも資産者の味方とはなつて居ない。彼等も大體、元來が無産者に外ならぬから、次第に社會運動の同情者になる。彼等到大勢の見當さへ附けば、彼等がさつさと態度を變えるとい

ふのが、大體、日本人の氣風である。で此方はさう心配でない。唯茲に困難といふのは一には外人との聯絡疎通である。從來までは、世界の労働運動といふても日本人等の如き異人種は除け者とされて居た。I.W.W.だけは此點に於て寛大といふことであるが、大勢はまだ——日本人に不利である。で其を打破るのが日本人の今後の努力に待つべきものである。そして私の見る所では其が中々容易のことでないと思ふ。それから其よりも尙ほ困難なのは日本人同志の一致である。恐らくは此が最大の困難と思ふ。一寸考ふると日本人には舉國一致が出来易いやうにも見ゆるが、實際仲々どうして、日本人にはむしろ統一が困難なるの傾をもつ。彼等は各自其利益の爲めに、又は其功名の爲めに別黨異派を立て、割據しやうとする。其が爲めに彼等共通の大利益を失ふことにもなる。爲めに外部から利用せられて、自分等仲間を賣ることにもなる。彼等が小我を棄て、大我に就き、全體が統一すれば大勢力となり、支配權を握ることも出来るけれども、さもない以上は大したことは出来ない。現に日本にて發達し掛けた労働者の團

體の内部を開くと、指導者の小な傷を洗ひ浚ひして、排擠を事とし、互に勢力争を事として居るといふことである。斯の如き有様であると、資本家階級も、政府官權も之を利用して、容易に其運動を牽制することが出来る。之を見て労働者階級は愚な事をして居るやうに、私達局外者は考ふるが、併し彼等からいへば恰も其に興味を感じ、其に意味ありとして居るのかも知れない。で私は日本の社會運動は外部から攪亂され易い弱點をもつと考ふる。日本の資本家も此急所を吞込んでかゝつたら、比較的永く其地位を保つことが出来るのもあらう。併し又労働者、社會運動者には何よりも先づ、彼等仲間の統一といふことの爲めに最大の犠牲を拂ふの信條を養ふことが、最大の急務也といふことを忠言する。併し更らに進んで考ふればたゞ、彼等の仲間だけが統一して彼等だけの利益を主張するのではなく、不完全であつて、結局反對利益者とも協調し、其相當の利益を尊重し、此等の者をも合せたる統一に進むことを期しなくてはならぬ。此最後の理想を維持しつゝ、先づ取敢えず自分の仲間の統一を固めることを勧告する。